

## 基本施策 11 ふるさとの自然・歴史・伝統・文化等を学ぶ機会の充実

### ■ 施策の方向

グローバル化が進展する中で、子どもたちが主体性をもって生きていくには、国際感覚を磨き、国際的視野に立ちながら、郷土や我が国の伝統・文化等を尊重し、それらを育んできた郷土や我が国を愛するとともに、他国の異なる文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことが大切です。

そのため、郷土や我が国の自然・歴史・伝統・文化等を学ぶ機会について、学校教育においては、地域社会と連携・協働しながら、各学校の特色を生かした教科等横断的な視点で充実を図ります。社会教育においても、様々な体験や人との交流を通じて充実を図っていきます。

また、現在まで大切に守り伝えられてきた地域の文化財を次の世代に確実に継承するため、その価値を明らかにするとともに、県民が文化財に触れ、親しみ、理解を深めることにより、ふるさとへの愛情と誇りをもてるよう、積極的な活用を図っていきます。

### ■ 主な取組

#### (1) ふるさととちぎを学ぶ機会の充実

- 小・中学校段階では、地域の人々の協力を得て地域の素材や学習環境を活用し、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図ることにより、各教科や総合的な学習の時間等において、ふるさと（地域、市町、県）の自然・歴史・伝統・文化等について理解を深める「とちぎふるさと学習」を推進し、ふるさとへの愛情を涵養します。
- 高等学校段階では、各教科や総合的な探究の時間等において、地域の素材や地域の学習環境を積極的に活用したり、生徒が地域の一員として地域の人々と共に活動したりすることなどにより、ふるさとについて理解を深める学習を推進し、ふるさとへの愛情及びふるさとの一員としての自覚などを養います。
- 学校と地域が連携・協働しながら、保護者や地域住民等の人材及び博物館や資料館などの施設、文化財、伝統行事など地域の様々な教育資源を活用し、子どもたちが地域の自然・歴史・伝統・文化等について学んだり、行事に参加したり、伝統芸能を体験したりすることができるよう、多様な教育活動の推進を図ります。



とちぎふるさと学習のホームページ



地域の教育資源を活用した教育活動  
(地域の保存会による伝統芸能の伝承)

## (2) 伝統や文化に関する教育の充実

- 各学校の特色を生かした教育課程の編成を図り、各教科等における学習や文化部活動等の特質を生かしながら、伝統や文化について理解する学習を推進し、それらを育んできた郷土や我が国への愛情を涵養します。また、他国の異なる文化についても理解し、尊重する態度を育みます。
- 博物館、美術館、文書館、埋蔵文化財センターなどの施設を活用したり、専門家や関係者と連携したりすることにより、伝統や文化に関する学習の充実に資するよう努めるとともに、文化財の価値や活用の仕方などを理解させることを通して、文化財を尊重する態度を養います。
- 音楽や演劇、伝統芸能の公演等を関係機関や専門家と連携しながら実施し、鑑賞することや体験活動等を通して、多様な伝統や文化に触れる機会の充実に努めます。



埋蔵文化財センター出前授業



埋蔵文化財センター施設見学

## (3) 文化財の保存と文化財に触れ親しむ機会の充実

- 未指定を含む県内の文化財について、所在や価値等を把握するため調査・研究を実施するとともに、文化財の指定等により適切に保存します。
- 県民が文化財の価値や魅力を実感できるよう、文化財を活用した学習機会の提供や公開等を行い、文化財に触れ親しむ機会の充実に努めます。
- SNSやホームページ、各種のイベントや講座等を活用して文化財の情報を積極的に発信し、県民の文化財への理解促進を図ります。
- 市町や関係機関等と連携・協力しながら文化財を活用する取組を進め、学校教育や生涯学習のほか、まちづくりや観光振興にも寄与します。



フェイスブック「体感!!とちぎの文化財」



「とちぎいにしえの回廊」  
ホームページ



## ■ 推進指標

推進指標	基準値 (2019)	目標値 (2025)
フェイスブック「体感!!とちぎの文化財」ページのコンテンツを見たユーザー数 (累計)	1,200,939 件	3,511,000 件

## 基本施策 12 より高度な世界・広い世界に触れる機会の充実

### ■施策の方向

社会が急激に国際化・情報化するに伴い、現代社会における諸課題も高度化・複雑化しています。これらに対応するために、他者と協働する力、最先端の知識・技能、国際的な視野及びチャレンジ精神を兼ね備えた人材の育成が必要とされています。

そのため、児童生徒の興味や関心を広げ、学ぶ意欲を高めるとともに、自分の未来を描ききっかけとするため、小・中学校段階から様々な分野において、専門性の高い技術等に触れる学習機会の提供を図ります。

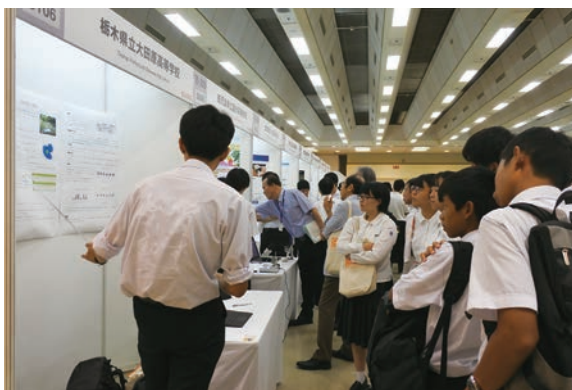
高等学校においては、大学をはじめとした研究機関等と連携して高度な学びの機会を提供し、学問への理解を深める教育や、地域や産業界等と連携して実践的・体験的な学習活動を充実させ、地域産業を担う人材を育成する教育の充実を図ります。

また、留学支援や、世界で活躍する人物や海外経験のある生徒の経験を共有する場の充実を図り、グローバル社会において必要とされる資質能力の育成を目指します。

### ■主な取組

#### (1) 高度な学びの機会の充実

- 子どもたちが未来を描き、意欲的に学ぶことができるよう、「とちぎ子どもの未来創造大学」など、県内の高等教育機関、民間企業等と連携しながら、専門性の高い「本物」に触れる学習機会の提供を図ります。
- 高校生が大学や研究機関等において高度な教育・研究に触れることにより、自ら学ぶ意欲を高め、高等学校における日頃の学びの価値を再認識するとともに、主体的に進路選択が行えるよう、魅力ある学校づくりを推進します。
- 大学や研究機関等の連携を通じて、日々進展する最先端の技術等に関する知見を教員が習得し、授業に活用するなど、教員の資質向上を図ります。



スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の取組



科学の甲子園 栃木県大会の取組

## (2) 産学官連携による産業教育の充実

- 企業における最先端の技術に触れる機会や、各産業分野の専門家から高度な知識・技術を学ぶ機会を提供する「キャリア形成支援事業」を推進します。
- 生徒が企業から技術指導等を受ける「高校生未来の職業人育成事業」を支援し、地域における実践的・体験的な活動の充実を図ります。
- 専門学科等が行う各種研究発表大会等に向け、企業等と連携した研究や商品開発、大学等との共同研究について支援します。
- 新たな時代に即した産業教育の振興と、専門高校における特色や魅力的な教育内容、生徒の高度な学びの成果を広く発表する機会として、本県で全国産業教育フェアを開催します。
- 産業教育に必要な実務における知識・技術の習得や、企業活動等についての理解を深めるため、教員を企業や大学等へ派遣し、各学科における専門性の高い教員を育成します。



地元自治体・企業等と連携・協働した取組

## (3) 国際的視野やチャレンジ精神の涵養

- 高等学校段階においては、外国語指導助手（ALT）を活用することによって、英語によるディベートやプレゼンテーション等の高度な言語活動を充実させることにより、グローバル社会において、様々な価値観や考えを持つ人々と議論する力や、自らの意見を世界に向けて発信する力等の育成を図ります。
- 高校生の長期・短期の海外留学を支援することにより、未知の世界へ挑戦するチャレンジ精神や様々な価値観を認め合い多様性を受容できる力の育成を推進します。
- 世界を視野に入れて活躍する人物を講師とする講演会や、県内高校生の留学経験者等による報告会などを開催する取組を通して、広い世界に対する見識を深めるとともに、国際的な視野から物事を考える力の育成を図ります。



外国語指導助手を活用した授業風景

## ■ 推進指標

推進指標	基準値（2019）	目標値（2025）
留学や海外とのオンラインを通じた交流や研修等を実施した高等学校の割合	33.9%	65.0%

## 基本施策 13 県民一人一人の生涯学習への支援

### ■ 施策の方向

社会の変化に対応しながら、健康で生きがいのある生活を送るためには、私たち一人一人が生涯にわたって自ら学習し、自己実現を図るとともに、他者と連携・協働しながら主体的に社会に参画していくことが求められています。

そのため、「栃木県生涯学習推進計画（六期計画）」において、「学び、つながり、活躍できる人づくり」を基本目標とし、生涯学習を推進する基盤づくりに取り組むとともに、生涯にわたる学びの機会の充実や学びを生かした地域づくりの促進等に取り組み、県民一人一人の生涯学習活動の支援に努めていきます。

### ■ 主な取組

#### (1) 生涯学習推進の基盤づくり

- 生涯学習の内容は多岐にわたることから、県生涯学習推進本部において、部局横断的に各生涯学習関連施策を推進するとともに、市町や関係機関、各団体等との連携強化を図り、県民の生涯学習活動等を促進します。
- 新型コロナウイルス感染症を契機とした新しい生活様式に対応するとともに、障害者や高齢者等の学びの機会が広がるよう、市町や関係団体等と連携するなど、これまでの対面式の講座提供に加え、ICTを活用したオンライン講座の実施等、誰もが、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習できるよう、県民の生涯学習を促進する環境づくりを進めます。
- 生涯学習活動を推進するには、学習機会の提供や学びへのきっかけづくり、多様な主体との連携・協働等を行うコーディネート機能が重要であり、「学びのオーガナイザー」としての役割を担う社会教育主事（※1）の養成や資質向上を図るほか、学校と地域を結ぶ役割を担う社会教育主事有資格者等の地域連携教員（※2）の活動を支援するため、研修等による資質向上等に取り組めます。
- 公民館や図書館、青少年教育施設等の社会教育施設など、県民の生涯学習活動の拠点となる施設においては、その機能を生かした学習機会の充実を図るとともに、県民が学んだ成果を生かして交流する場となるよう努めます。
- 栃木県みかも山公園内に、PFI方式（※3）により整備・運営する新青少年教育施設について、関係機関との調整等を図りながら、令和6（2024）年4月の開所に向け、着実に取組を進めます。また、県立美術館、図書館等に係る将来構想の策定について、関係部局とともに取り組みます。

#### (2) 生涯にわたる学びの機会の充実

- 世界トップレベルの長寿社会においては、人生を通して学び、複数のキャリアを持ち、多様な人生を歩む、いわゆるマルチステージの人生に移行していくことが必要と考えられており、

全ての県民が生涯にわたって生き生きと充実した生活を送り活躍できるよう、リカレント教育などライフステージに応じた多様な学習機会の提供に努めます。

- 誰もが学べる生涯学習社会の実現に向け、障害者の生涯学習を推進するため、障害の特性や合理的配慮についての学びを通じて障害者や障害への理解を促進するとともに、障害者の学習機会の充実に向けた環境づくりを進めます。
- 「とちぎ子どもの未来創造大学」など、様々な分野における体験学習活動の充実を図り、自己肯定感や主体性、協調性、積極性等、子どもが将来を描き未来を切り拓く力を育む学習を推進します。



とちぎ子どもの未来創造大学  
(医師・看護師の模擬体験)

### (3) 学びを生かした地域づくりの促進

- 地域づくりの要となる地域コーディネーター(※4)の養成や資質向上に努めるとともに、効果的な活動の情報提供等を行い、主体的に地域で活動する人材の育成に取り組みます。
- 中・高校生等のボランティア活動等への参画を促すため、自然体験活動や交流等を通じて社会貢献活動への興味・関心を養い、積極的に地域づくりに参画する青少年の育成を図ります。
- 「地域課題解決型学習プログラム」等を活用し、地域住民が協働して地域課題の解決に向けて行う取組を支援します。
- 市町や関係機関、団体等と連携し、地域住民が学習成果を活用し、活動できる機会の創出を促進するとともに、とちぎレインボーネット(※5)等による情報発信等を行います。



地域コーディネーター養成研修



地域課題解決型学習プログラム  
(地域元気プログラム)



## ■ 推進指標

推進指標	基準値 (2019)	目標値 (2025)
とちぎ県民カレッジ年間受講者数 (累計)	74,229 人	420,000 人

- (※1) **社会教育主事** 社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を行う専門的教育職員。社会教育法に規定された資格を有する者が、教育委員会の発令を受けて社会教育主事となる。
- (※2) **地域連携教員** 学校と地域の連携を推進する窓口となる教員。地域の教育資源を生かした教育活動を、生涯学習の視点から効果的・効率的に展開することを目的として、本県の指針を定め平成 26(2014)年度から県内全ての公立学校に設置。
- (※3) **PFI方式** 民間資金等活用事業(Private Finance Initiative)。公共施設等の建設、維持管理、運営等に民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用することにより、同一水準のサービスをより安く、又は、同一価格でより上質のサービスを提供する手法。
- (※4) **地域コーディネーター** 学校と地域が連携して行う様々な活動や人々をつなぐ役割を果たす者。地域や学校の情報収集、関係者等のつながりづくり、連携活動に関する計画等の作成、地域や学校への情報発信などを行う。
- (※5) **とちぎレインボーネット** インターネットを通じて県民一人一人が自分に最も適した学習機会を選択できるよう、学習に関する様々な情報をデータベース化した生涯学習情報提供システム。

## 基本施策 14 いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会を契機としたスポーツの推進

### ■ 施策の方向

本県の競技スポーツ選手がオリンピック・パラリンピックなどの国際大会や国内大会で活躍する姿は、多くの県民に感動や希望を与え、子どもたちに大きな夢を与えます。また、国民体育大会や全国障害者スポーツ大会等の大規模大会の開催は、人と人との絆を深め、地域の活性化につながります。

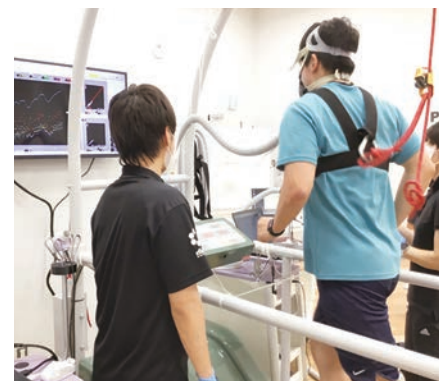
本県では、令和4(2022)年に開催する第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」・第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」(以下「両大会」という。)を好機と捉え、選手の発掘・育成・強化など競技力の向上を図るとともに、スポーツ環境の整備を進めます。

さらに、全国大会等の大規模大会の招致やスポーツ関係団体と連携したスポーツイベントの充実等により、両大会の開催による有形・無形のレガシー(遺産)を継承することで、「する」「みる」「ささえる」といったスポーツと関わる多様な機会の充実を図り、「スポーツで人生を豊かにする“とちぎ”」の実現を目指します。

### ■ 主な取組

#### (1) 本県選手の競技力の向上

- ジュニア期からトップアスリートまで、一貫した指導理念の下、発掘・育成する体制の構築を目指すとともに、トップアスリートの強化と、その活動を支援します。
- とちぎスポーツ医科学センターと連携し、スポーツ医・科学分野のサポートの充実に努め、効率的・効果的な強化事業の実施を目指します。
- スポーツ活動における暴力・ハラスメントの根絶、県内競技団体の組織体制の強化とコンプライアンスの徹底など、クリーンでフェアなスポーツの推進に取り組み、スポーツの価値の一層の向上を目指します。



とちぎスポーツ医科学センター

## (2) 大会の開催によるレガシー（遺産）の継承

- 両大会終了後も、大規模大会や国際大会を招致することなどにより、大会によって高まった県民のスポーツへの関心を本県におけるスポーツの更なる振興につなげます。
- スポーツ関係団体と連携し、両大会を契機に整備された施設等を活用したスポーツイベント等の開催等により、県民のスポーツ参加機会の充実に努めます。
- 両大会において、各市町で開催された競技種目等が地域に根差したスポーツとなるよう、市町やスポーツ関係団体等との連携を図り、地域スポーツの推進に努めます。
- 両大会の開催に関わったスポーツボランティア等が、その後もスポーツイベントの運営に携わることができるよう、市町やスポーツ関係団体と連携し、参加機会の充実に努めます。



カンセキスタジアムとちぎ（栃木県総合運動公園陸上競技場）

### ■ 推進指標

推進指標	基準値（2020）	目標値（2025）
国民体育大会での天皇杯・皇后杯の順位	(2019) 天皇杯 18位 皇后杯 26位	2022年は天皇杯・皇后杯を獲得し、その後も19位以内を維持する
成人の週1日以上スポーツ活動実施率 〔栃木県政世論調査〕	53.5%	65%（国の目標）